

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

① 第三者評価機関名

NPO 法人 ヒューマン・ネットワーク

② 施設・事業所情報

名称：桜川保育園	種別：保育園
代表者氏名：園長 宇都野 和司	定員（利用人数）： 90（104名）
所在地：茨城県土浦市田中三丁目4番5号	
TEL：029-821-8341	ホームページ：sakuragawa@showfukai.com
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 令和2年4月1日	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人祥風会	
職員数	常勤職員： 22名 非常勤職員： 11名
専門職員	保育士 22名 栄養士 1名
	保育補助 3名 調理師 1名
	看護師 1名 調理補助 2名
	管理員 2名 事務員 1名
施設・設備の概要	鉄骨2階造り 延床面積1134,93㎡ （居室数）保育室6 調乳室1 沐浴室1 一時預かり1 調理室1 （設備等）エレベーター1 多目的トイレ2 屋上 （その他）園庭はテニスコート4面分の大きさがあり、1周50メートルのトラックがある。又各学年に合った固定遊具があり、遊びの中で自然と体力を付ける事が出来る。

③ 理念・基本方針

基本理念：共に手を繋ぎ、今を生き生きと過ごし、未来に羽ばたく力を育んでいきます。

基本方針：1) 丈夫な「からだ」を育む
2) 考える「あたま」を培う
3) 思いやりの「こころ」を養う

④ 施設・事業所の特徴的な取組

利用者のニーズに合わせ、利用者、家族、地域との関係を含めた取り組みをしていく。

全てにおいて子どもを一番に考え、養護と教育が一体となって豊かな人間性を養い、家庭との連携を密にした協力体制の中で、心や生活リズムの安定を図っていく。また、日本古来の伝統や四季折々の行事を伝えていく。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和 6年 9月 1日 (契約日) ~ 令和 7年 2月 1日 (評価結果確定日)
受審回数 (前回の受審時期)	受審 1回 (初回)

⑥総評

◇特に評価の高い点

○全職員で理念を共有し実践に努めている

丁寧に関わり、子どもの笑顔育む保育をめざしますと表明し、その為の「保育理念」共に手をつなぎ、子どもたちが今を生き生きと過ごし、未来に羽ばたく力を育てていきます「保育目標」(1)丈夫な「からだ」を育む(2)考える「あたま」を培う(3)思いやりの「こころ」を養う「保育方針」★遊びを大切に意欲的に活動できるような環境を整え、集団生活の中でも一人ひとりを大切に受け止め、信頼関係を築きます。★日本の伝統文化を生活の中に生かしつつ、広い世界へも目を向け、豊かな感性を磨きます。★養護と教育が一体となって、豊かな人間性を養います。★家庭との連絡を密にし、協力体制の中で、心や生活リズムの安定を図ります。を標語に表し、職員室に掲示し朝礼で唱和して職員の理解を深め、入園時には保護者に説明し園の決意を届け、理解を得ている。聞き取り調査時の、理念の共有と理念に寄り添った保育の在り方についての質問に、主任保育士から「職員はワンチームで保育に向かっています」との言葉があり、理念に寄り添う保育に戸惑う職員には適切な助言と指導で職員全員で同質な保育になるよう協力態勢が構築され、職場文化として醸成されている事が窺えた。

○働き易い職場環境を構築している

施設長は、開設当初に当り何が大切で、その為にはどんな仕組み・機能を構築したら良いか、充分検討されていた。又施設長の基本的な考えの中に「職員の心と体の健康がより良い保育に繋がっていく」との信念があり、負担軽減のためICT化を決定し、看護師やフリー保育士の採用を計り、組織づくりを始めた。又コミュニケーションの大切さを重要と考え、全職員毎月一度面談を行ない、個人の希望・都合の把握、園の基本理念の共有などについて話し合いが5年経過の今も継続され、結果として、何でも相談し易い、自分の都合も遠慮無く希望や要望を発信出来る等、風通しの良い職場環境が構築され、成果として、職員同士も理解が深まり、仲が良く、シフト変更も個人の事情・都合も柔軟に受け入れられ、職員全員で対応する協力態勢が可能になっている。結果、職員アンケートにも働き易い・職場の中も仲が良い・自己都合を遠慮無く発信出来て計画的な休暇や、緊急事態にも職員全員で対応する職場文化として発展している。

○子どもの「やりたい」思いを大切に受け止め、様々な経験の中で意欲や想像力を育て、「子どもファースト」の保育を展開している

大型遊具やボルダリング、砂場などが整備されている広い園庭では、サッカーや鬼ごっこ、リレーなどで元気一杯体を動かして遊んでいる。また、桜並木が子ども達の目を和ませる近

くの土手や裏の田んぼなどの園を取り巻く自然環境を活かし、四季折々の季節の変化を感じたり、バッタやカマキリ、オタマジャクシなどの生き物に触れたりしながら、子ども達の自然への興味・関心を育て、感性を磨いている。全職員で取り組む「子どもファースト」の保育は、主体的に遊べる環境を整え、子どもの「やりたい!」「楽しい!」を引き出している。地域のお祭り体験から「お祭りごっこ」へ発展したごっこ遊びは、ラップの芯のバチやダンボールの太鼓とはっぴで盛り上がり遊ぶことができた。他にも、お店屋さんごっこ、水族館ごっこなど、友達と一緒に作り出す遊びは楽しさにあふれ、保育者は常に子どもの思いに寄り添いながら、子どもの意欲や想像力を育てている。

○子ども達と共に保育園で出来る「SDGs」を展開し、楽しい体験や経験を通して感性を広げ、未来に羽ばたく力を育てている

桜川保育園ではグリーンカーテンでの節電、節水、廃材を利用した玩具作り、オタマジャクシやメダカ、青虫等の飼育、リサイクル体験、まだ使えるもったいない箱の利用など環境を守る取り組み、「SDGs」に小さい時から興味・関心・意識を持ってもらおうと活動を展開している。特に食育に力を入れ、配膳の工夫や給食の出し殻を使った栄養満点ふりかけなど食品ロスをなくす事や、ナス、枝豆、トマト、バジル、さつま芋、お米作り他、朝顔、向日葵、コキア等野菜や花栽培にも土作りから取り組み、子どもも職員も感性を広げて協働している。採れたての野菜を使い今年はピザ作りに挑戦した。友達と計画し食材の買い出し、生地作り、具材トッピングには個性を發揮し互いを認め合い、煉瓦を積み上げて作った窯で焼き上げた。試食では美味しいと何度もおかわりをしている。楽しい体験から学び合い、喜びや満足からは自信を育み、食の大切さや感謝の気持ちも培い、生きる力の基礎を育てている。今季花壇にはコキアで作ったトトロ達が並び、楽しく意欲的に取り組める環境を園全体で盛り上げている。

○「ICT」の活用とチームの保育力で、保護者とより良い信頼関係を築き、更なる安心・安全を目指している

桜川保育園では開園当初から「ICT」を取り入れ、事務の効率化、保護者との連携、緊急時の対応などでは、速やかで正確で分かりやすい連携の対応で保護者からも信頼を受けている。保護者の方にとっては登園前からの情報が当日の園の生活リズムに活かされ、子どもの24時間の生活の変化を両方で共有し合い対話も活発に行われている。他、情報の伝達、保護者ニーズの対応も良好で安心・安全に繋がっている。また、職員は書類作成などの時間が短縮され、ゆとりを持ち保育に向き合っている。子どもの成長記録、休日の家庭での様子、子どもの興味のある遊びから学びなど保育方針にある、丈夫な身体づくり・自ら考える・思いやりの心を育てている過程を共有する事にも有効活用している。さらに園長先生はじめ全職員でのコミュニケーションを活かしたチーム力が、保護者の方とより良い信頼関係を積み重ね、子ども達が健やかに育つ豊かな環境を整えている。今年度、当園ではICT活用の取り組み内容を茨城保育魅力度コンテストに応募し入選するなど、全職員の更なる自信や意欲となっている。様子は動画でも紹介されICTを駆使した適切な使用と継続の良さが高く評価されている。

◇改善を求められる点

○実践事例を持ち寄り職員全員で環境構成や援助の仕方、一人ひとりの子どもの育ちをさぐること、園全体の保育力向上を図りたい

子どもの発達に沿った指導計画は、振り返りを行いより良い保育実践へとつなげている。職員は内部研修や外部研修に参加し個々の保育力向上をめざし取り組んでいる。今後、子ども一人ひとりに対する理解をさらに深めるために、日々の保育において集めた事例を持ち寄り、夢中になって遊ぶ子どもの姿を捉えながら、環境構成や保育者の援助は適切であったか、遊びの広がりはどうであったかなど、様々な視点から保育を振り返り、全職員で子どもの気持ちの変化や育ちを共有していくことで、さらなる園全体の保育力が向上されるよう期待したい。

○「中・長期の事業計画」及び「中・長期の収支計画」を策定することで、見通しを持ち理念や基本方針に向けたビジョンをより明確にするよう期待したい

桜川保育園における事業計画は毎年作成され、理事会・評議委員会で検討・決定されている。運営方針、基本理念、保育目標を掲げ、各年度の重点目標、保育活動、保護者支援、危機管理、職員の能力開発と研修の実施など、具体的に実現可能な内容で策定している。年度末には法人本部に結果を報告し、承認を受け、健全な経営が行なわれている。現在、中・長期的なビジョンを明確にした計画書はないが、地域ニーズの把握をしながら策定するように準備を進めている。今後、早急に文書化し「中・長期の事業計画」と「収支計画」の両方を策定することで理念や基本方針の実現に向けたビジョンを明確にし、さらなる保育の質の向上がなされるよう期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、『福祉サービス第三者評価』を受け、多くの肯定的な評価をいただきましたことをたいへん嬉しく光栄に思っています。

当園では、これまで、全職員が「基本理念」や「保育目標」、「保育方針」を共有し、それを実践することに全力で取り組み、働きやすい職場環境を構築するとともに、「ワンチーム」での保育を心掛けながら、常に「子どもファースト」の保育を実現するために努めてまいりました。

また、開園当初から「ICT」化を取り入れ、事務効率化により得られた時間を保育の向上に繋がるよう、創意工夫を凝らしながら、今後も職員一丸となって子どもの健やかな成長を支えるための取り組みを続けてまいります。

なお、評価結果においてご指摘いただいたように、「実践事例を持ち寄り、全職員で環境構成や援助の方策を検討すること」や「中長期計画を策定すること」などについては、可及的速やかに対応するよう努力していくとともに、高評価をいただいた内容につきましては、これからも継続しながら「誰からも信頼され、愛される保育園」を目指し、より良い保育環境の提

供に邁進する所存です。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）

評価細目の第三者評価結果（個票）

※評価細目について、判断基準に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念，基本方針が確立・周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-(1) ① 法人や施設（事業所）の理念が明文化されている。	a b c	

I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(1) ① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	
I-2-(1) ② 経営課題を明確にし，具体的な取り組みを進めている。	a b c	

～以下，評価基準に沿って評価細目毎に公表